

第3期 (2005年度) S S C S (Small Schools for Civil Society)

インターンシップ奨励プログラム

活動カリキュラム(2005年6月~2006年6月)

■団体概要

記入日 2005年2月

団体名 (小さな学校)	特定非営利活動法人 行徳野鳥観察舎友の会
代表者・連絡担当者	代表者 理事長 東 良一 連絡担当者 蓮尾純子
団体住所等	法人所在地 〒272-0127 市川市塩浜 4-2-21-1401 大関方 通常連絡先 〒272-0137 市川市福栄 4-22-11 行徳野鳥観察舎気付 電話: 047-397-9046 FAX: 左に同じ または 047-396-1582 蓮尾自宅(電話兼用) E-mail: ZVM11117@nifty.ne.jp URL: http://homepage2.nifty.com/suzugamo/top.html 連絡のつく曜日・時間帯: いつでも可
設立時期	1979年11月 設立

団体の活動目的と活動内容

行徳野鳥観察舎と行徳鳥獣保護区が活動の中心です。「新浜(しんはま)」と呼ばれた日本有数の渡り鳥渡来地の一角に造成された保護区域の自然を守り育てること・観察舎利用者相互の親睦を深め、普及啓蒙をはかることを目的としています。2002年度以降、野鳥観察舎と鳥獣保護区の管理運営の大半を、傷病鳥の救護(野鳥病院)を含め、本会が業務として受託するようになりました。生物にとって良好な湿地環境を育てるため、模索しながら日常の管理作業にあたっています。

■活動カリキュラム

活動名	行徳野鳥観察舎における傷病鳥救護・湿地復元の実践
主な活動場所 最寄駅名と駅からの距離	千葉県行徳野鳥観察舎 最寄駅: 地下鉄東西線 行徳駅から徒歩 25分
スケジュール	<p><活 動 な ど> (カリキュラムは、状況や事情により変更になる場合があります)</p> <p>2005年6月19日 <<前期>> 7~9月 10~11月</p> <p>2005年11月頃 <<後期>> 12~2月 3月以降</p> <p>2006年6月</p>
	<p>入校式・事前研修会(3期) ・インターン開始 ガイダンス 行徳鳥獣保護区・行徳野鳥観察舎とその活動の紹介 傷病鳥の世話 草刈り・水管理等湿地の復元や維持管理作業の実践 稲刈り 収穫祭 営巣場所整備等 友の会行事への参加・補助</p> <p>中間研修会 施設や機器の維持、補修等、繁忙期に手が回らない維持管理作業 インターン本人の興味や希望に応じ、通常業務の中で掘り下げたい内容に重点を置いて実践(例 水質浄化の実験や実践、観察会指導、動植物調査、展示物作成、傷病鳥救護、観察施設の改良 ほか)</p> <p>修了報告会(3期) / 入校式・事前研修会(4期) カリキュラムは基本的には観察舎で実施している業務の流れそのもの。どちらかと言えば単純作業の繰り返しです。それでも、30年続けていても、毎日が新しい発見と失敗(時には成功)の連続です。それが自然や生きものに接している活動の原動力かもしれません。 ☆ 実習にあたっては、破傷風予防接種をお願いいたします。費用はプログラム側が負担しますので、自己負担はありません。また、学校等で接種を受けている場合は別途接種の必要はありません。</p>
総合的な受け入れ指導者名 (スーパーバイザー):	蓮尾純子
日常的な受け入れ担当者名 (メンター):	蓮尾純子 佐藤達夫 ほか

■ インターンに期待すること（求められる専門性、技能などについて）

専門性、技能等は特に必要ありません。

心身ともに健康であること、できれば生きものや自然に興味があること、汚れ仕事をいとわず、仕事の中に面白さや楽しみを見出すことができる根性を求めます。

■ 活動日・活動時間についての希望

原則として9時～5時。活動日については、こちらからの希望や指定はありません。

■ 団体の活動を理解するために役に立つと思われる資料や情報

図書「水鳥たちの干潟」	蓮尾純子	フレーベル館
「野鳥観察日記」	蓮尾純子	筑摩書房（絶版）
「水鳥が戻ってきた」	蓮尾純子	NTT出版
「NPO実践講座2」	山岡義典編著	ぎょうせい
「せせらぎ1号発車オーライ」	行徳野鳥観察舎友の会	

■ その他

野鳥観察舎でやっている活動の内容は、単純作業の繰り返しが多いのですが、かなり多岐にわたり、奥も深いかもしれません。説明がなかなかむずかしいです。応募される際には、かならず見学（できるだけ1日体験をお願いしたいです）をしてください。その折は、あらかじめ電話（メールも可）での予約をお願いいたします。予約なしですと、時間を割けないことが多いです。では、どうぞ、お待ちしております。

先輩からのメッセージ

福永 杏 第1期インターン 大学院修士1年（参加当時）

野鳥観察舎では土まみれになったり、鳥のフンをつけられたりと本当に楽しい仕事を体験しました！ 真面目に言うなら、“環境保護”について最前線の現場を肌で感じ、現実と理想の差を学ぶ事ができるとてもよい所といった感じでしょうか。

なによりもインターンの間にスタッフの暖かい人柄に多くの事を学びました。人として大きく成長できる所だと思います（私も性格の悪さが少し薄れたと言われました！） 自信を持ってお勧めします。

先輩からのメッセージ

石山 大 第1期インターン 大学2年（参加当時）

NPOの実際の活動を身をもって知ることができます。様々な問題にぶち当たって自分を磨く場になるでしょう。足りないものは山のように、勉強も必要でした。が、身体で感じて学ぶことがここにはあり、本当に充実した日々を過ごすことができました。

炎天下、野鳥の声を聞きながらの草刈り。片翼がぶらさがった傷病鳥。東京湾の数少ない干潟。人とカワウとの軋轢。インターン同期との交流。あなたも一緒にどうですか？

先輩からのメッセージ

奥名美智子 第2期インターン 大学4年（参加当時）

私がインターンに応募したのは、野鳥に惹かれてです。もともと動物が好きなので、野鳥病院での活動に興味がありました。現在は、まだまだ修行が足りない身ですが、世話を通して一つの生命に触れる事ができ、ここでしかできない経験をさせていただいています。この経験が、自分を成長させてくれると思います。ぜひ第3期インターンになって、様々なことを体験し、学んでください。

先輩からのメッセージ

庭野 裕 第2期インターン 大学3年（参加当時）

行徳野鳥観察舎友の会の活動は、保護・保全・再生の最前線です。傷病鳥の救護が日常の大きなウェイトを占めていますが、忘れてはならないのが保護です。その中で日々少しずつ手入れを進めて、鳥やその他の生き物が住みやすい、埋め立て前の原風景を目指しています。草刈りなどの肉体労働は大変ですが、そこに狙っていた鳥が来てくれると、非常にやりがいを感じます。
